

資料室だより 115

+MANUALE AD SACRAMENTA ECCLESIAE MINISTRANDA

サカラメンタ提要 高祖敏明 編

+キリシタン版『サカラメンタ提要 付録』—影印・翻字・現代語文と解説—

高祖敏明 編著

Manuale....は 1605 年に長崎のイエズス会コレジオで印刷された、日本のキリシタン史において大きな価値を持つ源泉史料の復刻版です。西脇先生が寄贈してくださいました。典礼の手引き書がかくも重大な意味を持つのは、宣教師たちは「日本人は典礼によって仏教からキリスト教に改宗する」と確信したからです。巡察師ヴァリニャーノは「日本人は典礼にきわめて熱心であるので教会に行き秘跡を受け、聖なる事柄に外面的畏敬と謙虚な態度で接する」と述べています。トリエント公会議における「典礼の統一」の理念を受けた彼らは、日本という新たな宣教地で日本の教会事情に対応しながらもこのような提要（儀式のマニュアル）に精力を注いだのです。具体的には「洗礼」「赦し」「聖体」「婚姻」「病者の塗油」という、司祭が信徒に授ける秘跡について述べられます。後半は死者のための典礼（葬儀、埋葬など）手引きと共に重要なのは楽譜が含まれていることです。16 世紀のキリシタン達はこのような楽譜を見てグレゴリオ聖歌を歌っていたということです。これに関しては当資料室も所蔵する皆川達夫先生の「洋楽渡来考—キリシタン音楽の栄光と挫折」（763.322/M663/2）に詳述されていますので是非参照してみてください。

もう一冊の「付録」と称されるものは宣教師がラテン語ではなく日本語で信徒に教えるためにローマ字で日本語を表記したものの復刻と、翻字、現代語訳という労作です。冒頭の洗礼の秘跡のところを例にしますと、

Icani qiódai tadaima uonouonono mayeni tçutomerarubeqi coto uo cocorouo todomete xian xeraru bexi

↓

いかに兄弟、ただ今おのおのの前に勤められるべきことを、心にとどめて思案せらるべし。

↓

兄弟の皆さん、まさにこれから皆さん一人ひとりの前で執り行おうとしている洗礼式のことを心にとどめてじっくり考えてみなければなりません

その後、苦難の道をたどる日本のキリシタン、私たちの信仰の先輩たちが実際に耳にした教えの言葉を読むことは実に意義深いことに思われます。

杉本ゆり 記